

南西の海風 猛暑に影響？

今夏、県内でも猛暑が続いている。地形やヒートアイランド現象など暑さの原因は諸説あるが、岡山大大学院自然科学研究科の重田祥範さん(28)＝気象学＝は、岡山市内で行っている気温の定点観測



重田祥範さん

から「南西の海風が地表の熱で暖められて岡山市街地に到達し、特に市街地西部に高温をもたらしている可能性が高い」として、猛暑と海風の関連を研究している。(伊丹友香)

岡山大大学院生・重田さん研究



地表熱で暖められ 岡山市街地に到達 定点観測で推察

2007年から岡山く、江崎、益野地区な市内の約40カ所に温度計を設置。これまでの調査で、同市街地の夏季の日中の気温分布は「西高東低」であることが判明。津島、大元、妹尾地区など西部で高

開きがあった。08年7月から今年7月末までに岡山市で猛暑日(最高気温35度以上)を記録したのは計25日。海風が影響したとみられるのは17日あり、このうち13日は南西の風が吹いていた。岡山地方気象台は「海

海風は海面と陸地の温度差によって起こり、冬季以外の晴天時によく観測される。重田さんは日中の気温は岡山市より海に近い玉野市の方が低く、南東の海風が吹いた日は岡山市でも気温の上昇が抑えられる傾向を指摘。南西の海風は海から市街地に達するまで約30度あり、アスファルトなど地表の熱で

風と温度の関連について詳細な分析はしていないが、南西の海風が吹くと岡山市で暑くなる傾向はあり、気温の予想に反映させている」という。重田さんは「データを詳細に解析し、高温と海風の関連が裏付けられれば、より正確な気温予想が可能になる。熱中症対策にも役立つだろう」と話している。